

<基本方針>

2010年1月17日、阪神・淡路大震災から15年という一つの節目を越えた。例えば、1995年12月、私たちNGOは市民とともに「市民とNGOの『防災』国際フォーラム」を立ち上げ、これからの被災地KOBEの再建について議論し、多様な表現を持って発信した。そして10年目の同フォーラムでは、①もう一つの働き方を追求しよう ②最後の一人までを救おう ③震災を語り継ごうと、3つのことを確認した。

こうして私たち被災地の市民は、ともに寄り添い、支えあい、いのちがけで「いのちの尊さ」を体感してきた。政権交代半年を経た鳩山由紀夫前首相は2月初めに開かれた国会冒頭での施政方針演説で、「いのちを守る」「どんな場合でも孤立させてはいけない」「新しい公共」などの言葉を繰り返したが、これらの言葉はすでに私たちが15年間にわたって実践を重ねてきた言葉そのものである。いまようやく、この国の最高責任者が口にするまでに至った道のりの長さを、かみしめたい。

しかし、自然は容赦なく私たちに厳しい試練を与え続けている。2008年に遡るとミャンマーサイクロン“ナルギス”、中国四川省地震、2010年に入って間もなく、災害史上最大規模の被害かと心配したハイチ地震、さらに2月末にはM8.8という大規模な地震がチリを襲い、4月にはまたもや中国青海省地震と、ほんとに地球の軸が動いたかのような災害が相次いでいる。

他方、貧困や失業がその一因ともなっている自殺者が、毎年3万人を超えるという深刻な事態をまねくほどの社会的災害も後を絶たない。さらには、この豊かなはずの日本で日常茶飯事のごとく、子どもや女性、高齢者、障害者に対する「虐待」が起こっており、国際社会をリードするこの国の現実だとは思えないほどである。

ところで、先述したフォーラムの1年目の「神戸宣言」では、次のように宣言した。

「被災地の私たちは、自ら『語り出す』『学ぶ』『つながる』『つくる』『決める』行動を重ね、新しい社会システムを創造していく力を養っていくことから、私たち自身の復興の道を踏み出していくことを、強く呼びかける」

つまり、この15年間とは、この新しい市民社会を創造する力を養うことに費やしてきたとも言える。前段で厳しい現実に触れてきたが、さまざまな分野でやっと新しい市民社会の手応えを感じるようになり、かすかな希望の光を私たちに浴びさせてくれるようにもなった。

私たちはこの15年間、支えあう社会をめざして、まず目の前の一人ひとりに寄り添うことを優先して活動してきた。その中では、支える側と支えられる側の関係について、まだ十分に議論を深めてきたとはいえない。今こそ、何としても「支えあい」の構造をより深く解明し、その道筋を見い出して、「支えあいのしくみ」を具現化していきたい。これは、「人間の安全保障」でいうところの「保護とエンパワーメント」を具現化することでもある。

いま、災害史上最大の被害に襲われた300万人のハイチ地震の被災者は、これ以上ないだろうと思われる過酷な現実を与えられた中で、しかしそこからゆっくりと、しかも確実に、勇気と誇りを持って立ち上がろうとしている。

私たちはこのハイチから発信されている力強いメッセージを受け止め、連帯することによって、私たちの足下の社会を変えることに勇気が湧き上がってくるように感じる。いまあらためて、「支えあい」には「おたがいがさま」という言葉がついていることを想起したい。

【海外災害（地）への救援活動事業】

事業名（継続）	イタリア中部地震救援プロジェクト
実施日時	2009年4月7日から
実施場所	イタリア・首都ローマから約100km離れた震源地ラクイラ
受益対象者の範囲及び予定人数	（ラクイラの人口7万人）
実施内容	2009年度に続き、被災地との連絡を取り続け、これまで学んできた「道化師治療」ボランティアを生かしての支援を追求していく。それに関連して地震発生から懸案であった日本でドクタークラウンを広めようとしている人たちやイタリアあるいはフランスで活躍するドクタークラウンの有資格者などとの交流も重ねながら、継続した勉強会を行い具体的な支援につなげる。発災直後尾澤が現地で交流できた道化師治療のグループが活動を再開するという情報を得たのでしばらく追求する。もう一つの支援先候補として障害者団体も追求する。

事業名（継続）	アフガニスタン救援プロジェクト ～ぶどう畑再生支援事業～
実施日時	2003年から
実施場所	アフガニスタン カブール州ミールバチャコット地域
受益対象者の範囲及び予定人数	ミール・バチャコット地域の4村。人口は約15000人、全世帯数1560世帯。本事業に直接裨益する農業従事者は480世帯（2010/5/2）
実施内容	<p><経緯></p> <p>2001年の「9・11」の後、翌2002年にアフガニスタン西北部で地震が発生したために、スタッフがはじめて同国に入り、その後同年8月に2回目のアフガン入りをした。その後標記の「ぶどう畑再生事業」を提案し、財源確保の手段として「ぶどう基金」を募り支援金を集めてきた。2006年まではなんとか現地に足を運び、ぶどう農家との交流ができていた。その後、治安の悪化から日本の外務省も危険情報「退避を勧告します」を発令し、同国への渡航を自粛するように呼びかけてきた。CODEとしては、治安の悪化は充分予測できたことなので、ならば同国から日本に招いて農業や防災の研修ができないかと模索していたところ、JICAに「地域提案型草の根事業」があることを知り早速申請した。申請から2年目に採択され、2007年から2009年の3年間兵庫県佐用町や山梨県のぶどう農家で、有機・不耕起栽培を学んできた。（JICA 地域提案型草の根事業に詳細）</p> <p><内容></p> <p>これまでの研修成果を振り返り、原点である「品種は技術に勝る」をモットーに、とにかく実践を続け、質のよい、美味しいぶどうが育ち、ミールバチャコットのブランド「澤登2世」（仮称）が生まれることを目指して、農業に従事するように励まし続けていく。いまだ、現地には行くことは難しい情勢だが、メールでは頻繁に交信ができていくので、いまは根気よくつながりを維持することに専念する。例えば2010/5/2にメールで送られてきた「ミールバチャコットのぶどう栽培レポート」には、次のような報告があり、厳しい情勢下においてもコツコツと地域再建に取り組んでいることが伺える。</p> <p>—ぶどう共同組合（コーポラティヴ・シューラ）は、いくらか基金を集め、長期的な仕事の支援を申し込んできた新たな17世帯にそれを分配した。合計で480家族が、仕事のためにぶどう共同組合に加盟していることがわかっています。主として利用者は、夫を亡くした女性や、働くことができずに人を雇う必要があるお年寄りです。—</p>

事業名（継続）	サモア・西スマトラ地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2006年5月27日から継続事業、同プロジェクトは2008年4月1日から継続）
実施場所	サモア諸島及びインドネシア・スマトラ島西部パダン県周辺
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	<p><サモア> 情報収集を継続する。</p> <p><西スマトラ> インドネシアは、これまでも交流しているエコ・プロワットさんが中部ジャワに住んでいることから、ただちに連絡をし、被災状況を収集しはじめた。また CODE の理事である藤野さんが所属する PHD 協会の以前の研修生の中に、今回の被災地パダン県の漁村被害を受けておられるとの情報も入ってきた。この両者からの情報を整理した上で、この漁村においてエコ・プロワットさん達が始めている耐震構造による被災建物の再建が可能かを検討して貰っている段階。あくまでも現地において、両者が充分協議した上で、合意を見た上で支援事業を開始する。今のところ検討課題になっているのは、被災幼稚園のコミュニティスペースの新築とその元研修生アさんが住むパリアマン村での新築による多目的ホール建設などが候補に上がっているが詳細のレポートがない。</p>

事業名（新規）	ハイチ地震救援プロジェクト
実施日時	2010年1月13日から
実施場所	ハイチ共和国レオガン
受益対象者の範囲及び予定人数	Cardinal Leger 病院が位置する周辺 20 のコミュニティ、人口 7000 人（レオガンの人口 134000 人）
実施内容	<p>地震発災直後の 2010 年 1 月 25 日よりクワウテモックさん（メキシコの NGO リーダー）が、CODE のミッションを受けて被災地レオガンで調査・活動を継続している。当面は 5 月 15 日までを滞在期限としているが、まだ CODE の支援プロジェクトが決まっていないので、支援内容によっては滞在延長をお願いすることになる。彼は、主にモバイル・クリニック活動のお手伝いとレオガンの 2～3 の孤児院を廻りながら、同孤児院支援のためのドナーを捜し、同孤児院につないでいる。</p> <p>CODE としては、今後現地におけるどのような活動を支援するのかを理事会で協議した。その結果、今のところ考えられるのは可能な限り、クワウテモックさんが現地で滞在し活動できる環境をサポートすること、現地のカウンターパートナーとしてシスター須藤昭子さんとの連携が大事であることを確認。現状として被災者 300 万人、倒壊家屋 25 万戸という中で、いまだに簡易シェルター（ビニールシートと木材、トタンなど）での避難生活を余儀なくされている被災者も多く、これから迎える本格的な雨期、サイクロン発生に対する最低限の手当てが緊要であることを確認。シェルターに関しては、IOM 日本版ウェブサイトよりから 4 月 30 日付けで日本人スタッフのレポートが配信され、それによるとシェルター建設（建築の基準、広さ、コスト、耐久年数、耐震・耐サイクロンであること）の条件が提示されており、参考に出来ることがわかった。そこで、CODE として考えられることは、阪神・淡路大震災およびこれまでの経験（特にインド・グジャラート地震、イラン・バム地震など）から、耐震シェルター建設のためのワークショップやさらには職業訓練システムにまで発展させることの可能性を残し、地元のコミュニ</p>

	<p>ティと若い青年ボランティアの協力をもとに、このワークショップが可能ではないかと考えている。一度、CODE 理事の中から住宅建築の専門家の現地派遣を検討したい。ハイチには、インドネシアの「ゴトンロヨン（相互扶助）」と同じように、「コンビット」（協働）という習慣があることから、コミュニティの力を最大限に引き出し、現地の文化や生活習慣を尊重した住民主体のプロジェクトを実現したい。</p> <p>* 関西 NGO 協議会を介して、寄付を頂戴するパナソニック労働組合（本部大阪）にハイチ地震支援報告に行く（4月12日）</p> <p>* JICA 兵庫主催の「ハイチ復興支援研究会 第4回会合」に参加（5月12日）</p> <p>* ハイチ地震支援コンサート in 神戸に参加（5月19日）</p> <p>* ハイチ地震発生以来、ハイチへ届けるメッセージの翻訳などでお世話になっていた大阪在住のハイチ人シャシャさんが、被災地でもある彼のふるさと（ラプレン）につくった復興を支えることを目的としたボランティアの会「アクシス」に50万円の寄附をする。</p>
--	---

事業名（新規）	チリ地震救援プロジェクト
実施日時 実施場所	2009年2月27日 チリ国コンセプション
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	<p>HuMA（災害人道医療支援会）と神戸大学都市安全研究センター連携融合事業担当と連絡を取りながら、今後のチリ支援について検討したい。4月9日開催されたチリ地震報告会での内容によると、チリ政府筋からの救援依頼はないので、NGOとして独自のルート出入り、ニーズを探り必要であれば活動するということになる。HuMAは、4月13日より2度目の調査に入る予定だったが、現地にニーズがないようなので見合わせることになった。ちなみに神戸大学都市安全研究センターと保健省役人との事前のやり取りでは、「衛生管理、ゴミ処理、水の浄化、トイレの設置、倒壊・被災した病院サービスなどが問題である」と説明を受けていた。今後も情報収集を続ける。</p> <p>* JICA 兵庫主催の「チリ地震現地報告会」に参加（4月9日）</p>

事業名（継続）	ジャワ島中部地震救援ウォータープロジェクト ～通称：“呼び水プロジェクト～
実施日時	随時（2006年5月27日から）同プロジェクトは2008年4月1日から継続
実施場所	インドネシア・中部ジャワ Yogyakarta 省 Gunung Kidul 地区 Giri Sakar 村 （Giri Sakar 村の住宅被害は全半壊6軒）
受益対象者の範囲及び予定人数	Giri Sakar 村住民30世帯132名およびその周辺のRT
実施内容	<p>呼び水プロジェクトとして、2008年1月にスタートしてから2年を迎えるが、本格的に持続可能な暮らしの確保に向けて、一歩踏み込み「JICA 草の根技術協力事業（支援型）」（以下「支援型」という）案件に応募する。採択まで約1年かかるということなので、2010年度1年かけて JICA および現地との調整をしながら案件形成を行う。そのために</p>

	<p>上半期（7月上旬）に現地に行き、住民はじめ地元地方政府や関係者と意見交換・協議を重ね、この事業の妥当性と可能性を見極めて来なければならない。</p> <p>JICAの支援型の採択までには、通常1年かかるとのことで、採択されてもスタートは2011年度になる。従って、2010年度はじっくり案件形成に時間と叡智を費やしたい。なお、神戸学院大学の浅野壽夫教授のゼミでは、2010年度も海外のフィールド研修の地として、同地を選んでおり、連携していくことになる。</p>
--	---

事業名（継続）	中国・四川大地震救援プロジェクト
実施日時	2008年5月13日から
実施場所	地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	<p>当初確定していたプロジェクトが思いがけず頓挫してしまった関係で、新たな支援プロジェクトを追求しなければならないため、現地派遣体制を2010年9月まで延長する。今のところ追求しているのは、事業報告に列挙した内容が候補に上げられる。なお、関連の支援として下記の事業に寄付をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 7/10～7/20 2010年防災減災教育プロジェクト研修－四川大地震被災地青少年を日本へ交流訪問－（日中防災・減災ネットワーク運営実行委員会主催）に参加 * 共生人道支援シンポジウム「国際人道支援にところが揺れ動いた時～中国四川大地震における心理社会的サポート～」に参加（6月4日）

事業名（新規）	中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010年4月14日から
実施場所	中国青海省玉樹県の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	青海省540万人、玉樹チベット族自治州人口28万人、玉樹県10万人
実施内容	<p>（被害状況） 死者2220人、行方不明70人、負傷者121135人、倒壊家屋3211戸</p> <p>（内容） 2010年4月14日早朝7時49分、M7.1の大地震が発生。すでに2008年の同国四川省地震以来連絡を取り合っている成都市のゲストハウス「SIM'S」に連絡をし、被害状況はじめ実態把握に努め、一方日本における救援活動を立ち上げる。</p> <p>今回の被災地は標高3700mという過酷な地形でもあり、中国人の救援隊でも高山病で倒れるものが続出するほど救援活動は困難を極める。先述のゲストハウスから早速救援物資を積んでトラックを1台出すが、途中の道路状況の劣悪さもあって片道20時間以上要するという結果となった。今後の救援物資の提供は被災地により近い西寧で物資を調達し、被災地に運ぶことを検討することになった。</p> <p>CODEとしては、最低限の救援物資提供に最低限協力しつつ、阪神・淡路大震災以来過去47回の海外における経験を活かした支援活動が展開できるように今後も現地と連絡を密にし考え、実行して行きたい。</p>

【人材育成事業】

事業名（継続）	NGO ことはじめ
実施日時	年間を通じて3～4回
実施場所	当センター会議室もしくは神戸市内の貸会場
受益対象者の範囲及び予定人数	大学生など約60人（1回15人程度）
実施内容	<p>今年度は、新たに加わる専従スタッフと従来の非専従スタッフおよびボランティアスタッフ、インターン学生など若者を中心に講座内容を企画して実施する。 手法は同寺子屋形式のNGO講座とする。</p> <p>*6/25 18:00～ 「もう一つのハイチ」 講師 浅野壽夫（CODE 正会員、神戸学院大学教授）</p> <p>*7/9 18:00～ 寺子屋セミナー 講師 芹田健太郎（CODE 代表理事、神戸大学名誉教授、愛知学院大学法科大学院長）</p>

事業名（継続）	HAT 神戸内 国際機関訪問ツアー
実施日時	年間を通じて1回程度
実施場所	神戸市内
受益対象者の範囲及び予定人数	大学生など10人
実施内容	当会に出入りしている若者だけでも10人はいる。彼等・彼女等にまずこうした国際機関の見学を呼びかけたい。

事業名（継続）	スタッフのスキルアップ研修（スタッフは専従・非専従を問わない）
実施日時	随時
実施場所	原則国内
受益対象者の範囲及び予定人数	若干名
実施内容	<p>当会に出入りする若者に、可能な限りの機会を逃さず、チャレンジできる機会を提供したい。特に今年度から若手の専従職員が加わったので、進んで学びの場を活用して頂く予定。</p> <p>*国際協力連続セミナー in JICA 兵庫（4/19～5/31）への参加</p>

事業名（継続）	ボランティアの日
実施日時	隔月 1 回
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	<p>これまでの「ボランティアの日」の具体的作業は、ニュースの発送や印刷という作業に偏り、正直集まっても興味が持続しないのではないかと思われる。当会にはせっかく粋な会議室があるので、例えばカフェ形式にしてボランティア作業をしながらボランティアや国際協力について語るような工夫を試みる。</p> <p>又、関西学院大学および神戸学院大学からのインターンシップの受け入れを予定しているので、ボランティアの日と重ねることも可能である。</p>

【災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名（継続）	災害情報サイト（CODE World Voice）の運営
実施日時	随時（2002 年からの継続事業）
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて。
実施内容	<p>翻訳チェック担当の S さんが復帰したことと、SOHO 型翻訳ボランティアの K さんも健在なので、また盛り上がりが多いに期待できる。多言語の翻訳という理想には届かないが、とりあえず英語－日本語は続けていきたい。ちなみに CODE World Voice のファンが少しずつ増えていることを付記しておきたい。</p>

【国内外のネットワーク構築事業】

事業名（継続）	（関係機関からの受託事業）神戸学院大学「防災・社会貢献ユニット」の前期授業企画および講師派遣
実施日時	4月8日から、毎週火曜日。7月15日まで。（4月29日・5月6日は休講）
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
受益対象者の範囲及び予定人数	30人
実施内容	<p>CODE とのコラボレーション事業という位置づけで始まった神戸学院大学社会貢献ユニットへの講師派遣は、2010年度も下記のようなスケジュールと講師陣および内容で実施する。</p> <p><内容></p> <p>第1回（4/13） ガイダンス：（浅野、村井）</p> <p>第2回（4/20） CODE海外災害援助市民センターが担う社会貢献について（村井）</p> <p>第3回（4/27） 震災障害者が語る震災（牧秀一）</p> <p>第4回（5/11） 兵庫県佐用町水害の教訓と足湯ボランティア（藤室玲治）</p> <p>第5回（5/18） ハイチ地震から学ぶ（村井）</p> <p>第6回（5/25） ジェンダーと災害（斉藤容子）</p> <p>第7回（6/1） 呼び水プロジェクトーインドネシア・ジャワ島での挑戦（村井、エコ・プラワット）</p> <p>第8回（6/8） 前期振り返り（浅野・村井）</p> <p>第9回（6/15） 災害時における地域力（織田峰彦）</p> <p>第10回（6/22） 災害復興と行政の役割（斉藤富雄）</p> <p>第11回（6/29） 地方分権と被災者主体、市民主体とは？（松本誠）</p> <p>第12回（7/6） 農業と持続可能な社会（本野一郎）</p> <p>第13回（7/13） 減災サイクルともう一つの社会（村井）</p> <p>第14回（7/20） 受講生の感想文から学ぶ。（村井）</p> <p>第15回（7/27） まとめ（浅野、村井）</p> <p>その他月1回開催される研究会に参加し、随時催される同大学事業に協力する。 なお今年度はインターンシップ事業として同大学学生を若干名受け入れる。</p>

事業名（再掲）	（関係機関からの受託事業）JICA 草の根技術協力事業（支援型）の案件形成～通称：インドネシア・呼び水プロジェクト～
実施日時	2010年度後期後半に採択、事業の開始
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	関連内容は、ジャワ島中部地震救援ウォータープロジェクトを参照。

事業名（継続）	（関係機関からの受託事業）関西NGO協議会からの講師派遣
実施日時	
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	龍谷大学、関西学院大学が予定されている。

事業名（継続）	（関係機関からの受託事業）神戸大学都市安全センターより講師派遣を受託
実施日時	2010年6月17日
実施場所	JICA 兵庫
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	災害後のNGOの役割について

事業名（継続）	関係団体への正会員加盟やシンポジウムなどの実行委員会あるいは運営委員会への参加
実施日時	随時
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> * 4/17 神戸大学都市安全センター主催の研究会に参加（村井理事） * JICA 兵庫主催のODA連続セミナーに参加（重掲） * 4/26 JICA 兵庫主催の国際防災研修センター・第一期事業報告会に参加（村井理事、岡本千明） * 5/29 関西NGO協議会の理事会および総会に出席（村井理事） * 6/4 共生人道支援シンポジウム「国際人道支援にこころが揺れ動いたときー中国四川大地震における心理的社会的サポーター」にコメンテーターとして登壇。（村井理事） * 6/12 ハイチ復興支援研究会 第4回会合（黒田理事、村井理事） * 2011/1 UNCRD 兵庫事務所主催のシンポジウム * その他

事業名（継続）	（関係団体の主催する事業との連携）ゆとり生活館 AMIS(1F)のNPO/NGO 交流コーナーに参加
実施日時	年数回開催
実施場所	同会館1階
受益対象者の範囲及び予定人数	同会館利用者
実施内容	前年度同様積極的に協力する。 （内容） 年1回の運営委員会、年1回の発表会には参加する。

【「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般。
実施内容	詳細は「NGO ことはじめ」事業を参照。（重複）

【「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	増員目標 10 名の確保に向けて、2009 年度に実施したように一般の災害救援の寄付名簿から、賛助会員の掘り起こしを図る。 * 5 月 14 日発行「CODE ぶどう新聞～よみがえれ アフガニスタン～」を約 700 部発行。ぶどう基金会員にも、賛助会員の呼びかけをする。

事業名	救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	CODE の主たる事業である救援プロジェクトについての報告会を随時開催する。報告会開催によって、市民による災害救援への一層の理解と、新たな支援者の獲得をはかる。また、災害救援全般や国際交流・協力・NGO についてなど講師派遣の依頼を受けた場合にスタッフ等を派遣し、普及活動に努める。以下 2010 年度すでに確定している内容。 * ハイチの今後の支援に対する提言を、社民党服部良一衆議院議員をとおして社民党党本部に提出。(4 月 7 日) * 今年度はハイチ地震報告会が行われる。 4 月 12 日 関西 NGO 協議会を介してご寄付を戴いた「パナソニックグループ労連・社会貢献活動基金運営委員会」で CODE が展開しているハイチ救援活動の報告を行う。 5 月 22 日～23 日 福岡の読売交流プラザで開催される震災がつなぐ全国ネットワークと読売新聞社「安心・安全防災セミナー」共催のイベント期間中、ハイチ地震支援をアピールする写真展を開催。 * 講師派遣として、神戸市立楠高校、神戸女子学院大学が予定されている。 * 4 月 29 日 防災士会研修 in 千葉 (吉椿)

事業名	機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関誌は年3回発行 インターネットは随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	機関誌は全国各地 700 人 インターネットは不特定多数
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ CODE の機関誌である「CODE レター」を計 3 回（1 回約 700 部）発行する。 ・ ホームページに関しては、さらに内容を充実させ、スピードアップを図る。 ・ ツイッターでの情報収発信について研究する。

事業名	冊子及び書籍等の発行及び支援グッズの販売
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>書籍や支援グッズの販売を行う。</p> <p>具体的には、CODE T シャツ、まけないぞう、書籍「災害救援」、ホワイトバンドなど。</p>

【その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	CODE エイド設立のための情報収集および研究
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	本事業については意見交換を重ねてきたが、正直具体的な提案が出来ていない。そこで2012年度12月でCODE 法人設立10年の節目となるので、それに向けてあらためて協議を始めたい。

事業名	CODE スタッフへの奨学金制度の継続について
実施日時	随時
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	直接裨益するものは若干名
実施内容	本奨学金制度は、6年目に入る。奨学金としてサポートするために「CODE 奨学金」の存在をもっとアピールする。